

## 平成27年度 方向性実現に向けた取組の実施状況

### (1) 医療の充実と地域への貢献への取組

#### ア 質の高い医療の提供

成功要因	事業(取組)名	実施状況(主な取組み)等	評価
良質な医療の提供	チーム医療推進	NST(栄養サポートチーム)を核とし、定期カンファレンス及びラウンドを実施。教育研修会を全職員3回、新人職員1回、コアスタッフ1回開催。ST(言語聴覚士)による嚥下機能評価訓練等を実施。	B
	クリニカルパス推進	各科で作成しているクリニカルパスを調査。	B
	地域連携パス構築	未実施。	D
	カンファレンス開催推進	開催状況の調査・分析、効果を測定。	C
	褥瘡発生抑制	入院患者全員の褥瘡診療計画を作成し、リスク評価及び予防やケアを実施。	B
医療安全対策の推進	医療事故防止	状況確認のため院内ラウンド(18回)、院内職員研修を2回、看護部でKYT活動を隔月実施。また、毎日、外来患者対象の相談業務を実施。	B
	院内感染制御	週1回定期的に院内ラウンドを行い、感染対策委員会で報告。他病院との合同カンファレンスに参加。感染防止対策加算2を取得。	B
疾病予防事業の強化	健診センター設置	健診事業の拡充に向けた検討を実施。	C
	人間ドック強化	予約から実施までの手順の簡素化、効率化を促進し、所要時間の短縮への取組を実施。	B
	特定健診推進	市広報への掲載、ケーブルテレビの活用等による市民への周知を実施。	C
	市民健康啓発	糖尿病教室、市民公開健康講座、看護の日記念行事、糖尿病週間行事等を実施。また、月1回、ケーブルテレビ番組での啓発を実施。	A
医療設備・機能の充実	医師確保	地方の医師不足が深刻化する中で、県ドクターバンクや医師紹介会社へ登録。周南市とともに、山口大学への強力な要請を実施。	B
	病院拡張	未実施。	D

#### イ 患者サービスの徹底

成功要因	事業(取組)名	主な事業(取組)内容等	評価
患者中心の医療の提供	医療面接力アップ	指導的立場の職員を対象に研修会を開催。	B
	健診センター設置(再掲)	健診事業の拡充に向けた検討を実施。	C
切れ目のないサービス	入院時スクリーニング徹底	退院支援スクリーニングシートに記入し、地域連携室やリハビリと連携しながら、退院調整を実施。退院調整加算 221 件。	B
	退院時指導マニュアル整備	各部署で随時、見直しと共有化を実施。	B
	退院前カンファレンスと看護サマリー充実	電子カルテ(看護サマリー様式)への掲載等により情報を共有化し、効率的な退院前カンファレンスを実施。介護支援連携指導料 92 件。	B
接遇の向上	接遇委員会設置	サービス向上委員会を隔月開催し、挨拶の徹底など、接遇研修を実施。受け持ち看護師や師長による入退院時の挨拶、見送りを実施。	B
夜勤体制の充実	夜勤業務の効率化と適正配置	短時間勤務者の勤務規定の文書化、夜勤業務マニュアルの見直しを実施。夜勤3人体制を部分的に実施。	B
待ち時間対策の強化	診察開始時間厳守	医師への周知を徹底。	B
	待ち時間対策	外来アンケート調査により実態把握を行い、総合受付での問診業務の改善や図書コーナー充実など長く感じさせない対策を実施。	B
	問診改善	総合受付での問診業務の改善により、待ち時間を短縮。	A

サービスの充実	快適な入院が送れるサービス提供	看護師長による総合案内、テレビカードの見直し、冷蔵庫の全床頭台への設置、エアコンの時間延長稼働等を実施。	A
満足度の測定	アンケート調査	外来と入院の患者アンケート調査結果を各部署に周知し、部署毎に対策を実施。	A
アメニティの推進	整理整頓・クリーンアップ	5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動を部署毎に実施。	B
苦情、医療事故への迅速な対応	苦情対応	迅速な対応を徹底。院内に設置したご意見箱への苦情等に対する回答を院内に掲示するとともに、病院ホームページや病院だよりに掲載。	B

## ウ 地域への貢献

成功要因	事業(取組)名	主な事業(取組)内容等	
救急体制の強化	救急搬送受入れ強化	常勤医師の原因により減少傾向。救急車搬入患者数 538 人。	C
	消防署との連携強化	消防署との連絡会議の開催は未実施。	D
災害発生時の医療体制の強化	災害発生時対応備品確保	災害発生に対応した備品を確保。	C
	行政・企業との連携強化	平成 28 年度に開催予定。	D
疾病予防事業の強化(再掲)	健診センター設置(再掲)	健診事業の拡充に向けた検討を実施。	C
公設診療所への出張・定期巡回診療の展開	出張・巡回診療	中須診療所及び須金診療所へ週1回の出張診療を実施。	A
病診連携の強化	症例検討会開催	関係医療機関との読影会を開催。	C
訪問看護の充実	訪問看護PR	PR用のパンフレットを、看護の日記念行事、ブルーサークルイベント、市民健康講座などで配布。	C
在宅医療の推進	認証取得条件の整備	在宅療養支援病院の施設基準に合致しないため未実施。	D
地域や市民に開かれた病院	病院ボランティア受入れ	中学生体験学習の受入れを実施。	C
	地域活動への参加	サンフェスタしんなんよう等のイベントに看護班として看護師が参加。	B

## (2) 経営基盤の強化への取組

成功要因	事業(取組)名	主な事業(取組)内容等	
トップマネジメントの強化	経営方針発表	仕事始め式や会議、院内広報誌等により経営方針の周知を実施。	B
	PDCA実践	経営プラン関係事業の進行管理を実施。	C
管理会計の運用強化	部門別月次収支の実施	当院における部門別収支を把握するための仕組みを設計し、四半期毎の部門別収支表を作成。	B
入院・外来患者の確保	広報	病院ホームページの充実、ケーブルテレビの活用、病院だよりの発行。また、看護の日記念行事等のイベントで健康相談等を実施。	B
効率的な病床利用	平均在院日数最適化推進	ベッドコントロールは、看護部主体で実施。地域包括ケア病床 30 床については、毎週関係部署によるカンファレンスを実施し、入退室時期等を検討。年間平均患者数 22.6 人、在院日数 38.9 日、在宅復帰率 88%。	A
	病床コントロール	退院日の調整、他科入院患者の受入調整、地域包括ケア病床の活用及び地域包括ケア病床カンファレンス、同運営会議で情報の共有化を推進。	B
診療単価のアップ	施設基準取得	医師異動に伴う施設基準(眼科関連)を実施。また、次期診療報酬改定に向けて、積極的に情報収集を実施。	B
診療報酬請求の適正化	診療報酬減額査定対策	件数比の削減、算定漏れの防止のために、DPC 提出データを利用した独自のチェックとレセプトチェックソフトを活用。	B
未収金の発生抑制と回収の強化	未収金対策	限度額適用認定証の申請促進、無保険者・資格証明者への早期対策及び高額未収金回収業務の法律事務所へ委託を実施。	A

薬剤等の管理の適正化	医薬品品目数削減	使用実態を把握、削減品目候補を選択し、薬事審議会において、医師の意見も集約した上で、約 25 品目の削減を実施。	B
	医薬品経費削減	在庫管理の適正化のため、使用頻度から、品目毎に在庫量や発注量を調整。また、各病棟担当薬剤師と各部署期限チェック担当者が定数に合わせて品目・数量を調整し、必要に応じて、定数見直しの提案も実施。	B
人件費の適正化	職員数適正化	職場実態調査を実施。	C
経費の適正化	経費適正化	会議等で各部署に経費削減の協力を要請。	C
業務内容の見直し	業務内容適正化	化学療法実施状況調査を実施し、外来薬剤療法の拡大に向けた取組みを推進。	B
業務の効率化	業務改善推進	院内広報によるTQM活動を周知し、定期的に自由参加のTQM活動研修を実施。12月に7チームが参加して、TQM活動成果発表会を開催。	A

### (3) 魅力ある職場づくりへの取組

成功要因	事業(取組)名	主な事業(取組)の実施状況等	
人材確保の強化	医師等確保(再掲)	地方の医師不足が深刻化する中で、県ドクターバンクや医師紹介会社へ登録。周南市とともに、山口大学への強力な要請を実施。	B
	院内研修	機能別・階層別研修計画の策定し、計画に沿って研修を実施。認定看護師、災害支援看護師を養成。	B
人事管理システムの構築	人事異動最適化	各部署の状況・希望等の実態調査を実施。	C
職員の士気の高揚	成果主義導入	人事考課制度の適正な導入を図ることを目的として、人事考課トライアルを実施。	A
	資格等取得促進補助	資格等取得促進に向けた規定の整備を実施。	B
	職場改善・創意工夫表彰	定期的に自由参加のTQM活動研修を実施。12月に7チームが参加して、TQM活動成果発表会を開催。	A
職場環境の改善	職場環境改善推進	サービス向上委員会において、職場環境の向上等について協議。	C

### 【項目別の事業(取組)の評価】

項目	事業(取組)数	A	B	C	D
(1) 医療の充実と地域への貢献	38	5	18	10	5
ア 質の高い医療の提供	13	1	7	3	2
イ 患者サービスの徹底	14	3	10	1	0
ウ 地域への貢献	11	1	1	6	3
(2) 経営基盤の強化	15	3	9	3	0
(3) 魅力ある職場づくり	7	2	3	2	0
計	60	10	30	15	5

【評価基準】 A:計画以上に実施 B:概ね実施 C:ある程度実施 D:未実施